

平成26年度 主題研修

「研究のまとめと来年度の方向性」

北九州市立光貞小学校
主題推進委員会

平成16年度～平成26年度
豊かな心を持ち、よりよく生きようとする子どもを育てる道徳教育

こころあったかの木
(特別活動との関連)

学年掲示
(総合単元的な道徳学習の足跡)

教室掲示
(道徳の時間の学習の足跡)

道徳教育だより
(地域への発信)

道徳の授業参観
(地域への発信)

道徳教育に関する
アンケート
(地域からの要望)

総合単元的な
道徳学習
(道徳の時間を要とした各教科・領域との関連)
各教科
特別活動
学校・学年行事
道徳の時間
総合的な学習の時間

昨年度に続き
今年度の教育研究論文は…
道徳の時間のねらいに迫る、言葉を生かし考えを深める指導法の研究

【着眼1】

ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫

【着眼2】

道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫

◇ 児童の共通体験を生かした生活場面の設定

◇ 本時のねらいに沿った生活場面の振り返りの工夫

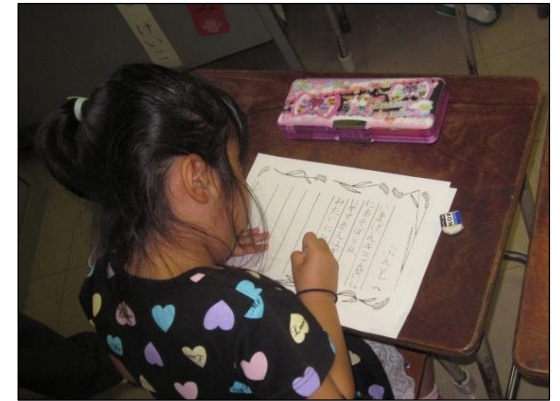
◇ 道徳的価値の内面化と実践意欲の向上を図る指導・支援の工夫

第1学年の取組

主題名：いきものをたいせつに

内容項目：低3-1) 生きることを喜び、生命を大切にできる心をもつ。

資料名：「ミノムシ」(出典 文溪堂)



ねらい ようすけの気持ちを考えることを通して、生きているものすべてに等しく尊い命があることを知り、それを大切にしようとする心情を育てる。

【着眼1】 ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫

◇ 中心発問においてワークシートに書く活動と二人組で語り合う活動、全体発表を連続することで、自分と友達の考えを比べ、理解し、ねらいとする道徳的価値に迫るようにする。

【着眼2】 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫

◇ 本時学習と生活科「いきものとなかよし」の学習を、導入と展開後段、終末の場面で関連付け、ねらいとする道徳的価値に向かって考えを深めていくようにする。

◇ 導入や展開後段で児童が生き物と関わっている様子を大型テレビで提示し、道徳の時間と生活場面とを関連付けて、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めていくようにする。

◇ 終末では、自分の関わった生き物に手紙を書く活動を設定し、ねらいとする道徳的価値への実践意欲を高めるようにする。

<成 果>

- 資料提示の工夫や基本発問により、中心発問では、主人公と自分の思いを重ねながら考えてワークシートに書くことができた。また、ワークシートに書いたことを二人組で伝え合ったことで、自分の考えを確かめたり、友達の考えに触れたりすることができ、生命の大切さに触れることができた。
- 終末で、生活科の学習で育てていた自分の虫に手紙を書く活動を取り入れたことも、ねらいに迫る活動となった
- 生活科の学習と関連を図り、道徳の時間に生かしたことで、生活科学習の体験が補充・深化・統合され、生命を大切にす道徳的実践力が高まった。

<課 題>

- 書く・話し合う活動をさらに深めるために、何を問うのか、何を書き、何を話し合うのか、視点を明確にして伝える必要がある。
- 話し合う活動に継続して取り組むことが必要。

第2学年の取組

主題名： すなおな心

内容項目： 低1-(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。

資料名： 「みかんの木の寺」(出典 学研)



ねらい いちろうたちの気持ちを考える活動を通して、うそやごまかしをしないで、正直に、明るい心で生活しようとする心情を高める。

【着眼1】 ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫

◇ 中心発問では、ワークシートに書く活動で自分の思いや考えを明確にした後、グループで話し合う活動において役割演技を行い、登場人物の思いに共感することで、ねらいとする道徳的価値に迫るようにする。

【着眼2】 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫

◇ 「気持ちすっきりカード」の取組と本時学習との関連を図り、ねらいとする道徳的価値へと考えを深めていくようにする。

◇ 展開後段で「わたしたちの道徳」を活用して生活を振り返り、道徳の時間と生活場面とを関連付けて、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めていくようにする。

◇ 終末では、「気持ちすっきりカード」を紹介し、メッセージをスライドショーで視聴することで、ねらいとする道徳的価値への実践意欲を高めるようにする。

<成 果>

- 板書を工夫し、主人公の行動を視覚的にとらえることができるようにしたことで、中心発問では、ワークシートにねらいに迫る記述が多く見られた。
- ワークシートに書いたことを、グループ内で役割演技を活用して話し合ったことにより、ねらいへと考えを深めることができた。
- 「わたしたちの道徳」や「気持ちすっきりカード」を活用して生活を振り返ったことにより、ねらいとする道徳的価値を自覚することができた。

<課 題>

- 道徳的価値に気付くための中心発問の工夫や考える視点を明確にする指示の検討が必要。
- 導入場面での生活の振り返りと展開後段との関連が必要。
- 言葉を生かした多様な指導法の工夫が必要。

第3学年の取組

主題名： 友達のよさ

内容項目： 中2-(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。

資料名： 「たまちゃん、大すき」(出典 東京書籍)



ねらい まる子の気持ちを考える活動を通して、友達の立場や気持ちを理解し、互いに信頼しようとする心情を育てる。

【着眼1】 ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫

◇ 表情絵や大型テレビで場面絵を提示するなど資料提示を工夫することにより、登場人物に共感して考えられるようにする。

◇ 中心発問においてワークシートに書く活動で自分の思いや考えを明確にし、二人組から全体へと話し合う活動を連続することで多様な考えに触れ、考えを広げたり深めたりして、ねらいとする道徳的価値に迫るようにする。

【着眼2】 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫

◇ 本時学習と体育科や総合的な学習の時間、学級活動との関連を図り、ねらいとする道徳的価値へと考えを深めていくようにする。

◇ 終末では、児童が書いた「ありがとうカード」をスライドショーで紹介することで、ねらいとする道徳的価値への実践意欲を高めるようにする。

<成 果>

- 資料提示の工夫をしたことにより、登場人物の気持ちに共感して考えることができた。
- 中心発問において、ワークシートに書く→ペアで話し合う→全体で話し合う活動を連続したことで、児童は考えを広げたり深めたりすることができた。
- 「ありがとうカード」の視聴を通して、自分にはない友達の発言や行動に触れ、自分にもできることを確認し、道徳的実践意欲を高めることができた。

<課 題>

- ねらいに迫るための視点を明確にした中心発問の工夫が必要。
- 具体的な体験やその時の心情を語ることのできる、生活の振り返る手だての工夫が必要。
- 全体で意見を交流し、考えを深め、ねらいに迫る話し合い活動の充実が必要。

第4学年の取組

主題名： 自分のよい所をのばして

内容項目： 中1-(5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。

資料名： 「うれしく思えた日から」(出典 文部科学省「わたしたちの道徳」)



ねらい 「ぼく」の気持ちを考える活動を通して、自分のよい所に気付いて自信をもち、よい所を進んで伸ばそうとする態度を養う。

【着眼1】 ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫

- ◇ 中心発問では、ワークシートに書く活動で考えを明確にする。その後、グループで話し合い活動を行い、「なるほどレベル」を活用して話し合いの活性化を図るとともに自分の考えを深め、ねらいとする道徳的価値に迫るようにする。
- ◇ 展開後段では、自分のよい所をこれからどうしていきたいかという視点で感想を書くようにする。今後の自分の行動をなるべく具体的に書くことで、自分の中にある道徳的価値の自覚を深めるようにする。

【着眼2】 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫

- ◇ 学級活動「イトコメガネ」の取組と本時学習を導入や展開後段の場面で関連付け、ねらいとする道徳的価値へと考えを深めていくようにする。
- ◇ 終末では、担任教師や校長先生が説話を行い、自分のよい所を伸ばした経験を話すことで、ねらいとする道徳的価値への実践意欲を高めるようにする。

<成 果>

- 「なるほどレベル」を活用して話し合ったことで、互いの考えに対する思いを伝え合うことができた。そのため、話合いが活発になり、ねらいに向かって考えを深めることができた。
- 展開後段で「これからのぼく・わたし」を書いたことにより、自分のよい所を伸ばすための具体的な記述が多く見られた。
- 「イトコメガネ」の取組を導入や展開後段で関連させたことで、道徳の学習を通して自分のよいところを振り返り、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができた。
- 担任や校長先生の説話は、未来の自分への期待感を膨らませ、実践意欲を高めることにつながった。

<課 題>

- 「なるほどレベル」の活用の仕方の工夫が必要。なぜ「なるほど」なのか、理由を明確にして伝えることが重要。
- 中心発問の場面の選択や発問の工夫により、「イトコメガネ」の取組を振り返って考えることができたのではないか。

第5学年の取組

主題名： 公正公平な心

内容項目： 高4-(2) だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。

資料名： 「一郎のしんばん」 (出典 東京書籍)



ねらい 一郎の気持ちを考える活動を通して、自分の利害得失にとらわれることなく、常に公正、公平にふるまい、正義の実現に努めようとする心情を育てる。

【着眼1】 ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫

- ◇ 展開前段では、付箋に自分の考えを書き、KJ法を活用してグループで話し合い活動を行うことにより、多様な考えに触れ、自分の考えを深めるようにする。
- ◇ 中心発問では、KJ法で作成した話し合いシートを活用して考え、ワークシートに書く活動で自分の考えを明確にして、ねらいとする道徳的価値に迫るようにする。

【着眼2】 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫

- ◇ 導入と展開後段で生活を振り返る場面を設定することで、ねらいに沿った生活の振り返りができるようにする。その際教師が自分や友達の行動を支えた思いを引き出し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるようにする。
- ◇ 終末では、「明日への伝言板」を聞くことで、ねらいとする道徳的価値への実践意欲を高めるようにする。

<成 果>

- KJ法を用いて付箋に書いたことにより、どの児童も多様な視点から考えを出すことができた。付箋を話し合いシートに整理しながら話し合ったことにより、多様な考えに触れ、自分の考えを深めることができた。
- 導入と展開後段で生活場面を振り返ったことにより、主人公と自分を重ねながら考え、ねらいに迫ることができた。また、教師の助言により、自分にもねらいとする道徳的価値があることに気付くことができた。
- 終末に、児童が共感できる、ねらいに沿った作文を聞かせたことで、実践意欲の高まりが見られた。

<課 題>

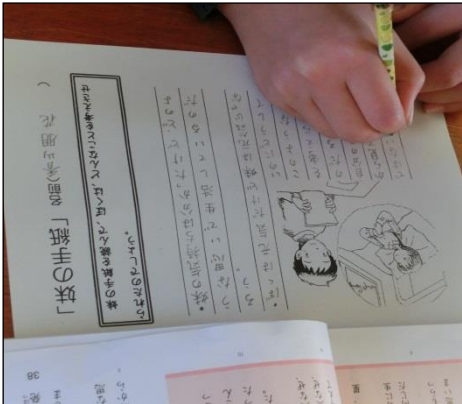
- KJ法を用いて作成した話し合いシートを話し合う活動の中で効果的に生かすことができなかった。練習が必要。
- 話し合いの視点を明確に指示することが必要。
- 事前に把握した児童の実態をどのように提示するか工夫が必要。また、教師の価値付の声かけも必要。

第6学年の取組

主題名： 一生けん命に生きる

内容項目： 高3-1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

資料名： 「妹の手紙」(出典 光文書院)



ねらい ぼくや妹が「生きること」や「命」について考える姿を通して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重し、力強く生きようとする心情を育てる。

【着眼1】 ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫

- ◇ 中心発問では、ワークシートに書く活動で自分の考えを明確にして、ねらいとする道徳的価値に迫るようにする。
- ◇ 展開後段では、「精一杯生きる」ことについてグループで話し合うことで、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるようにする。

【着眼2】 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫

- ◇ 展開後段では、「精一杯生きる」ことについてグループで話し合った後に自分の生活を振り返ることで、ねらいとする道徳的価値の内面化を図るようにする。
- ◇ 終末では、困難を克服してがんばって生きている方の手紙を聞くことで、ねらいとする道徳的価値への実践意欲を高めるようにする。

<成 果>

- 「ワークシートに書く→グループで話し合う→全体で話し合う」の手順で活動を進めたことにより、ねらいに迫る話し合いに深めることができた。
- 展開後段で、「精一杯生きる」ことについてグループで話し合い、友達の考えに触れたことで、ねらいとする道徳的価値を捉え、自分の生活をねらいに沿って振り返ることができた。

<課 題>

- 生活を振り返るための手だてが必要。教師が児童の実態とねらいとする道徳的価値を結び付けていくことが必要。
- 生活を振り返る時間を確保するために、資料を事前に読んでおくなど、資料を学習する時間を短くする工夫は必要。

研究の成果

(1) 【着眼1】ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫による成果

- 書く活動や話し合う活動を活性化するために、導入において本時のねらいに関連する生活場面を振り返り、資料を読むときの視点を示したり資料提示の工夫をしたりした。このことにより、**ねらいへの意識付けを図ることができた**。また、児童は**自分の思いと主人公の思いを比べたり、共感したりしながら考えることができ、自分の考えを明確にして書いたり、考えを交流し合ったりすることにつながった**。
- 第1学年においては、ワークシートに書く→二人組で語り合う→自分の考えや友達の考えを全体で発表、第4学年においては、ワークシートに書く→「なるほどレベル」を活用したグループでの話し合い→全体での発表→ワークシートに書く、第5学年においては、付箋に考えを書く→KJ法を用いたグループや全体での話し合い→ワークシートに書く、というように、**書く活動と話し合う活動との連携をより深めたことにより、本時のねらいにより深く迫り、道徳的価値の自覚を深めることができた**。
- 展開後段の生活を振り返る場面において、これからの**自分について考え、「こんな自分になりたい」という願いをワークシートに書く活動**を取り入れた。本時のねらいに対する**道徳的実践意欲を高めるのに、とても効果があった**。

(2) 【着眼2】 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫による成果

- 児童の共通体験を生かした生活場面を設定し、把握した児童の実態を道徳の時間と関連付けて生かしたことにより、本時のねらいにより深く迫り、道徳的価値の自覚や道徳的実践意欲の高まりを促がすことができた。
 - ・ 第1学年においては、生活科の学習との関連を図り、生き物と触れ合ったり、お世話をしたりした体験を基にして考えを深め、補充・深化・統合をしていったことにより、本時でねらう道徳的価値の自覚を深めることができた。学習後、生活科の学習においても関連を図ったことで、命を大切にしようとする道徳的実践力の高まりが見られた。
 - ・ 第4学年においては、特別活動との関連を図り、「イトコメガネ」という独自の活動を実践することで、本時のねらいに関わる共通体験を設定した。それにより、本時のねらいにおける児童の実態を把握するとともに、児童にねらいへの意識付けを図ることができた。この「イトコメガネ」の活動を基にして考えを深め、補充・深化・統合をしていったことにより、本時でねらう道徳的価値の自覚を深めることができた。学習後も「イトコメガネ」の活動を継続したことにより、自分のよい所を進んで伸ばそうとする道徳的実践意欲の高まりが見られた。
 - ・ 第5学年においては、体育科の学習や遊びの中での審判の体験を取り上げ、事前のアンケートを実施したことにより、児童への意識付けを図った。それにより、本時のねらいにおける児童の実態を把握し、審判の体験を基にして考え、補充・深化・統合していったことにより、本時でねらう道徳的価値の自覚を深めることができた。学習後に自然教室や学習発表会、小体連球技大会などの行事と関連を図ったことで、公正、公平にふるまい、正義の実現に努めようとする道徳的実践力の高まりが見られた。

- 導入や展開後段、終末など、本時のねらいに沿った生活場面の振り返りを工夫したことにより、児童は自分の経験と重ねながら考えることができ、1時間の学習を通して思考を継続していくことができた。これにより、児童は自分の生活を振り返りながら本時のねらいへと迫ることができ、**道徳的価値の自覚や道徳的実践意欲の高まり**をうながすことができた。
 - 導入において生活場面を振り返ったことにより、本時のねらいへの意識付けを図ることができた。また、資料を通して本時のねらいに迫っていくときに、**自分の体験と重ねながら主人公の気持ちや思いを考えていく**ことができた。これにより、ねらいとする道徳的価値に気付くだけでなく、自分の中にある道徳的価値を自覚していくことができた。
 - 展開後段において生活場面を振り返ったことにより、本時のねらいとする道徳的価値の自覚を図ることができた。特に、**導入の生活場面の振り返りと関連付けて振り返ったことで、資料でとらえた道徳的価値を自分の中にある道徳的価値へと内面化を図る**ことができた。これまで、資料から生活場面へのつながりがうまくいかず課題であったが、子どもの意識がスムーズに流れ、道徳的価値の自覚を深めていくことができた。
 - 終末においては、お世話をした生き物への手紙を書く、「明日への伝言板」の児童作品を読む、教師の説話を聞くなど、本時のねらいについて**児童の生活場面や体験と重なるものを提示**したことにより、「**自分にもできる**」という思いが膨らみ、**自分もそのようになりたいという道徳的実践意欲を高める**ことができた。

- 事前の関連する学習や活動を、**道徳の時間の指導の中で何度の振り返ってねらいとする道徳的価値の自覚を図り、事後の関連する学習や活動へと意識付けを図りながら、継続して取り組んだことにより、道徳的実践力を育成していくことができた。**
- ・ 第1学年では、**生活科の学習と道徳の時間との関連を図りながら、生活科の学習の中で「命を大切にすること」を常に意識付けして取り組んだことにより、愛情をもって生き物の世話をしようという態度へとつながっていった。**
 - ・ 第4学年では、**特別活動「イトコメガネ」の活動と道徳の時間の関連を図りながら、「イトコメガネ」の活動を発展して取り組んだことにより、自分のよさを知り、自分に自信をもち、よりよい自分を目指してがんばろうとする意欲の高まりが見られるようになった。**
 - ・ 第5学年では、**道徳の時間を通して自覚した「公正、公平にふるまい、正義の実現に努める。」という道徳的価値を、行事を中心とした様々な活動の中で意識付けしながら取り組んだことにより、「公正公平な自分」を意識してめあてを立てたり、行動したりする姿が見られるようになった。**

今後の課題

本研究を通して、以下2点の課題が明らかになった。今後は、道徳教育に対するアンケート(児童及び保護者、教師)で得た実態や願いを踏まえて、この2点の課題解決を図っていきたい。

(1) ねらいに迫る「書く活動と話し合う活動」の活性化を図る指導・支援の工夫についての継続研究

- ・ 本校のこれまでの研究で取り組んだ、様々な書く活動や話し合う活動の手だての活性化を図り、ねらいへと迫る活動にするために、考える視点や話し合う視点を明確にして、**児童に伝えるための発問の工夫**が必要である。
- ・ 書く活動や話し合う活動の系統性を考え、**児童の発達の段階に応じた手だてにする必要がある。**

(2) 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫についての継続研究

- ・ 道徳の時間と生活場面の事象とを効果的に結ぶための、道徳の時間のねらいを意識した教師の意図的な取組はできている。より効果的に道徳の時間で補充・深化・統合を図るために、**生活場面でとらえた実態を児童にフィードバックし、振り返りの手がかりとしていく手だて**を考えていく必要がある。また、**児童の発言を価値付け、道徳的価値の内面化を図り、実践意欲を高める発問や問い返しの工夫**が必要である。

平成27年度 研究主題(案)

道徳の時間のねらいに迫る、 言葉を生かし考えを深める指導法の 研究

- ◇ ねらいに迫る「書く活動」と「話し合う活動」の活性化
 - ・ 考える、書く、話し合う視点を明確にする発問の工夫
 - ・ 児童の発達段階に応じた「書く活動」や「話し合う活動」の手だての工夫
- ◇ 道徳の時間と生活場面を結び、考えを深めるための指導・支援の工夫
 - ・ 児童の体験を生活の振り返りに生かす手だての工夫
 - ・ 児童の体験を価値付する手だての工夫